

新しい「お金」の授業

金融庁総合政策局総合政策課総合政策管理官 中村 香織

はじめに

「2022年4月から始まることは？」と聞かれたら、何を思い浮かべますか。

高校生の皆さんにとって身近なのは、「成年の年齢が20歳から18歳に引き下げられること」でしょうか。

それともう1つ、高校生の皆さんに関係することがあります。高校の家庭科の教科書が新しくなり、「お金」についての授業の内容がより詳しくなるのです。

私たちが暮らしていく上で、お金との関わりは切っても切り離せません。今日のご飯は何円？今月の携帯代は？アルバイトの時給は？正社員になったらお給料はいくら？など。今は自分とは関係ないことのように感じるかもしれませんが、でも、30歳、40歳になってもそのままいい！と思う人は決して多くないのでは。それは皆さんが無意識のうちに「お金のことは、大人になったらやる（できる）こと」と思っているからではないでしょうか。

でも、大人になるのはもうすぐです。もう18歳になっている方もいらっしゃるでしょう。皆さんが、社会に出てひとり立ちする前に「お金」について知っていただくため、これまで以上に詳しく学ぶことになりました。

ここでは授業の内容をダイジェスト版でご紹介します。

1. 家計管理とライフプランニング

今、どうしても欲しいものがあるけれど、今の手持ちのお金では足りない場合、皆さんはどうしますか？

保護者の方などに言えば必要なだけお金をもらえる、という人もいるかもしれませんが、普段もらっているおこづかいを節約してお金を貯めたり、アルバイトをしてお金を稼ぐ、という人も多いでしょう。

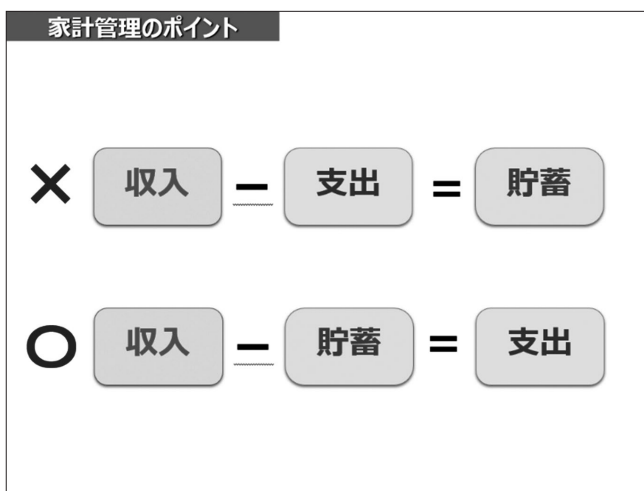
このように、お金をやりくりすること、つまり「収入」と「支出」を管理することが、家計管理の始まりです。

今後、進学して一人暮らしを始めたり、社会に出て働いたり、家庭を持つようになると、「収入」も増えていくでしょうが、家賃や食費、住宅ローンや子どもの学費などなど、「支出」も増えていきます。

この家計管理のポイントは、収入から支出を差し引いた残り（収支）をプラス（黒字）にして、その黒字分を貯蓄することです。先ほど例にあげた「節約してお金をためる」「アルバイトをして稼ぐ」というのは、使い道が決まってからお金を用意する方法ですが、理想は「今の手持ちのお金で足りる」ようにしておくことです。単に欲しいものなら買わずに我慢することもできますが、病気になって病院にかかりたいなど、どうしても必要な支出の時に「お金がない！」では困るからです。

でも、「お金が残ったら貯蓄しよう」と思っている、ついつい使ってしまう、という人もいます。そういう方は、給料が入ったら、先に一定の金額を貯蓄に回し、残りのお金の範囲

内で家計をやりくりする方法も検討するとよいでしょう（銀行等でそのような設定をすることもできます）。



家計管理にあたって、もう1つ考えていただきたいのは、自分は将来どんな「暮らし方」をしたいか、ということです。例えばですが、どんなふうに仕事をしたいか（会社員？起業？など）家は買いたいのか（買うなら何歳くらいで？どんな家？）、子どもは何人ほしいか、どのような教育を受けさせたいか、といったことです。もう少し歳をとったら、老後の生活についても考える必要があります。

これを「ライフプランニング」と言います。自分の夢や希望を、お金を理由に諦めることを少しでも減らせるよう、長い目線でライフプランニングを考え、それを日々の家計管理に活かしていくことが重要です。

特に大きなお金がかかるのが「教育」「住宅」「老後」で、「人生の3大費用」と言われています。計画的に準備しておくとい良いでしょう。

2. 使う

家計管理のポイントは、「先に貯蓄をして、残りのお金でやりくりすること」ですが、欲しいものがありすぎてお金が足りない！という方もいると思います。

そんな時は、「必要なもの（needs）」か「欲しいもの（wants）」か考えて、必要なもの、買わないと困るものを優先してお金を使うようにしましょう。

例えば同じ洋服でも、おしゃれで着てみたいだけなら「wants」ですが、お仕事に必要なものであれば「needs」になるでしょう。一人ひとりの価値観や生活スタイル、ライフプランによって変わるので、自分で考えてみるのが大事です。

また、お金を使う時は、「キャッシュレス」を上手に使っていくことも重要です。

「キャッシュレス」とは、電子マネーやクレジットカード、QRコード払いなど、現金を使わずにお金を支払ったり受け取った

プロフィール < なかむら かおり >

金融庁総合政策局総合政策課総合政策管理官
2006年金融庁入庁。2020年7月より、金融経済教育等を担当。どの年代からでもお金について学べる環境を作るべく、高校・大学生向けを中心とした授業の実施・指導教材の作成や、社会人向けセミナーの実施のほか、小学生向けコンテンツとして、「うんこドリル」と連携した「うんこお金ドリル」の作成にも携わる。



りする方法です。

キャッシュレスは、現金をたくさん持ち歩かなくて良いので安全ですし、何にいくら使ったかをアプリなどで記録・確認しやすいので、非常に便利です。

一方で、現金と違ってお金を払った実感がわきにくいので、つい使いすぎてしまうこともあります。また、災害などで停電してしまった時に使えなくなったり、パスワードをきちんと管理していないと、不正に使用されてしまうおそれもあります。

慣れないうちは、使い道や限度額を決めておくのもよいでしょう。

3. 備える - 社会保険と民間保険 -

「保険」とは、病気やけが、災害や事故などのリスクに備え、みんなで少しずつお金を出し合って、必要な時に金が支払われる仕組みです。

保険には「社会保険制度」と「民間保険」があります。皆さんが病院に行くとき、保険証を渡すと、実際の料金の3割の支払ですみます。残りの7割は国の「医療保険制度」から払われます。保護者の方が、お給料などから少しずつお金を支払い、この制度を支えています。「社会保険制度」はほかにも年金保険、雇用保険、労災保険などがあります。

「民間保険」は、民間の保険会社が提供する保険で、自分で必要なものを選んで契約します。生命保険や損害保険があります。

先ほどの医療保険制度など、日本は海外と比べても社会保険制度が非常に充実しています。まずは社会保険で備えられる範囲を確認して、それでは足りないと思う分を民間保険で補うようにしましょう。

4. 貯める・増やす - 資産形成 -

将来の生活を豊かにしたり、リスクに備えるためには、自分の資産を貯める・増やす「資産形成」が重要です。なお、ここでは、代表的な資産形成の方法について説明しますが、働いて稼ぐことや、稼ぐ力を高めるための自己投資（語学やPCスキルなど）も非常に大事だということも忘れないでください。資産形成の基本は銀行などの預金で「貯める」ことです。ポイントは、1と2でご説明しました。

ほかに、お金を「増やす」方法として、株式・債券・投資信託などの金融商品を使うこと（いわゆる「投資」）ができます。

4.1. 金利の話

具体的な説明の前に、お金の話をする上で絶対に知っておいてもらいたい、「金利」の話をします。

金融機関や会社でのお金のやりとりには、通常「利子（利息）」が発生します。お金を借りたら、返す時には予め決められた利子を上乗せして返します。貸す側からみると、貸した

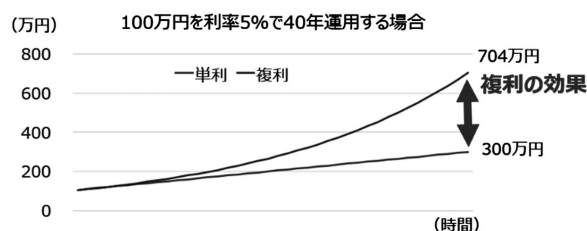
金額に利子の分が上乗せされて返ってきます。

利子は、通常は元のお金（上の例でいう「借りた／貸したお金」のこと。「元本」といいます）に対する割合で決めます。これを「金利（利率）」と言います。100万円を金利1%（年）、返済期限は1年で借りると、1年後に101万円（100万円+利子1万円）を返すことになります。

資産運用の場合は、預けたり、投資したお金（元本）についた利子の分などが、自分の利益になります。そして、利子で増えた分も運用に回すと、元本が増えるので、より多くの利益が見込めます。利子に利子がつくので、「複利」といいます。複利の効果は、金利が高いほど、期間が長いほど、大きくなります。

単利と複利

- 最初の元本だけに利子がつくことを「単利」と呼びます
- 元本のみならず、利子も運用すれば、その利子にも利子がつくことを「複利」と言います



複利の効果は、金利が高いほど、期間が長いほど、大きくなります。

4.2. 安全性・収益性・流動性

金融商品を選ぶ時のポイントとして、①安全性、②収益性、③流動性があります。それぞれの意味は以下のとおりです。

- ①安全性 お金（元本）が減らないかどうか
- ②収益性 どれくらいの利益が期待できるか
- ③流動性 必要な時にお金を引き出しやすいか

自分にとって必要なものや、目的に応じて使い分けたり、組み合わせることが大切です。

4.3. 主な金融商品

それでは、主な金融商品の特徴を説明します。

①預金・貯金

銀行（預金）やゆうちょ銀行（貯金）などにお金を預けることです。銀行などに預けている私たちのお金は、日常の買い物、公共料金やクレジットカードの支払に使われ、日々の生活に欠かせないものです。そのため、必要な時にいつでもおろせます（流動性：◎）。また、もしも銀行が倒産したとしても、1,000万円まで（とその利息）は保護されます（安全性：◎）。

一方で、普通預金の金利は年0.001%ほどです。100万円を預けると、1年後は100万10円になります（収益性：△）。

主な金融商品の特徴①

預金 貯金

- ・銀行等にお金を預けること
- ・給与の受け取り、公共料金の引き落としなどでも利用
- ・お金の引き出しが簡単（銀行やコンビニのATMなど）
- ・元本保証あり（元本1,000万円までとその利息）

元本保証とは、金融商品の購入・投資に充てた資金が減ることはないということ。



⇒ 預金・貯金は、一般的に、収益性は低い(△)が、安全性・流動性は最も高い(◎)。

②債券

会社（株式会社）が事業を行うためには資金が必要です。資金を集める方法として、(1) 銀行などから借りる、(2) 金融機関や一般の人から広く借りる、(3) 金融機関や一般の人に会社の出資者（スポンサー）となってもらう、の3つがあります。

(2)の方法をとる時、会社は「債券」を発行して、金融機関（証券会社や銀行など）を通じて多くの人が買えるようにします。ちなみに、会社が発行するものを「社債」、国が発行するものを「国債」、地方自治体が発行するものを「地方債」といいます。

「債券」には、予めお金を返す期限（満期）と、利率が決められています。「債券」を買くと、決められたとおり定期的に利子が支払われ、満期が来ると債券を買った金額（元本）が戻ってきますが、もしも債券を発行した会社などが倒産してしまうと、お金が返ってこない可能性があります。そのため、収益性は①預金より高く、③株式より低い、安全性は①預金より低く、株式より高いものが一般的です（収益性：○、安全性：○）。

満期より前に売って現金に換えることはできますが、元本より安い値段でしか売れないこともあり、満期まで持つことが原則です（流動性：△）。

主な金融商品の特徴②

債券

- ・国や会社にお金を貸すこと
- ・定期的に利子が支払われ、満期がくれば額面金額を受け取ることができる
- ・国が発行するものを「国債」
- ・会社が発行するものを「社債」という
- ・発行した会社等が倒産すると、返済されない可能性がある（元本は保証されていない）



⇒ 債券の安全性は、国債は高く(◎)、社債は発行企業次第。一般的に、流動性は低く(△)、収益性は、預金より高く、株式より低い(○)。

③株式

(3)の方法をとる時、会社は「株式」を発行して、金融機関（証券会社など）を通じて多くの人が買えるようにします。それを購入することが「株式投資」です。法律的には、株式を持っている人は「株主」といい、株主は会社の所有者（持っている株式の分だけ）となり、「株主総会」などで会社の経営などに意見を出すことができます。

株式は、会社の所有権の一部なので、会社が利益を上げると「配当」として利益の一部が株主に渡ります。そのため、多くの人が「この会社は成長しそう」と思うと、皆がその株式を欲しくなるので、値段（株価）が上がります。オークションで、人気の商品は値段が高いようなイメージです。値段が上がった株式を売ることによって、大きな利益を得ることもできます（収益性：◎）。

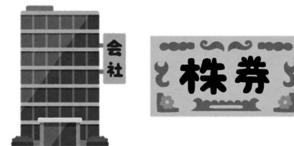
一方で、会社の業績が下がると株価は下がります。業績が下がる原因には、会社をとりまく環境の変化（例えばテレワークが増えたことで、売り上げが減る）などがあり、確実に予想するのは難しいです。また、株式は会社の権利の一部なので、会社が倒産してしまった場合は価値がゼロになってしまいます（安全性：△）。

株式は比較的簡単に売って現金に換えることができますが、手元に現金が入るまで数日かかるので、預金よりは流動性は下がります（流動性：○）。

主な金融商品の特徴③

株式

- ・購入者（株主）は会社の一部を所有することになり、会社はお金を返す必要はない
- ・会社が上げた利益に応じて配当などを受け取ることができる
- ・会社の業績や、国内・海外の景気などによって、株式の価値（株価）も変動する（元本は保証されていない）



⇒ 株式は、安全性は低い(△)が、高い収益性(◎)が期待できる。流動性は高い(○)。

④投資信託

投資信託とは、多くの人のお金を集めて、専門家が株式や債券などに運用するものです。「ファンド」ともいいます。

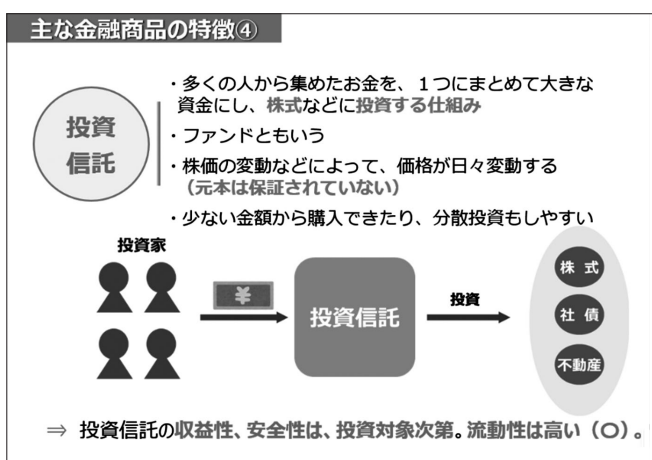
個人が個別の会社の株式や社債を選んで運用するには、投資の知識や経験、まとまったお金がないと難しいことが多いですが、投資信託の場合は、専門家が運用すること、毎月100円、1,000円など、少ない金額で投資できて、初心者でも始めやすいものが多くあります。

また、多くの金融商品に投資することを「分散投資」といいますが、これにより、元本割れのリスクを抑えることができます。

1社の株式だけ購入すると、その企業の業績が悪いと元本割れてしまいますが、10社買っていれば、他の9社の業績によっては、全体としてプラスになる、という形です。

投資信託の中には、「TOPIX」という、東京証券取引所の一部市場に上場している全ての企業の株式(2,000社以上)に投資するものや、全世界の株式に投資するものもあります。

そのため、投資信託の収益性・安全性は、その投資信託が何に投資しているか、次第となります(収益性:○~◎、安全性:△~○)。



以上の金融商品の特徴をまとめたものがこちらです。特に安全性と収益性が両方◎の商品がないということは覚えておいてください。ローリスクハイリターンの商品はないのです。

主な金融商品の特徴まとめ

	安全性	収益性	流動性
預金・貯金	◎	△	◎
株式	△	◎	○
債券	○	○	△
投資信託	△~○	○~◎	○

⇒ 3つとも◎の金融商品はありませぬ。目的に応じて使い分けましょう。

5. 借りる

「家計管理」や「使う」のところでは、ためているお金の中から欲しいものを買う、とご説明しましたが、「通勤や通学で車が必要だけど、貯まるまで待ってられない」ということもあると思います。

そういう場合は、ローンを組むなどしてお金を借りて買い物をして、後からお金を返していくことになります。

お金を借りることが悪いわけではありません。ただし、お金を借りると「金利」の分を上乗せして、つまり、借りたお金以上のお金を返す必要があります。また、返済するお金の分を、それまでのやりくりの中から用意する必要があります。毎月1万円返済するとしたら、収入を月1万円以上増やすか、他の支出を1万円分減らさないと、生活自体が苦しくなってしまいます。

そのため、お金を借りる前に、自分で返せる金額かどうかをよく確認しましょう。その際、金利についてもよく見てください。一般的に、住宅や車など、高額なローンは審査があって、収入などの条件によっては借りられないことがある代わりに金利は低めに設定されています。カードローンや、クレジットカード(リボ払いやキャッシング、通常3回以上の分割払いにした場合は、借りる金額は少額で借りやすい代わりに、金利が高く設定されていることが多いです。

例えば、どうしても欲しいものがあつたとして、キャッシングで金利16%で20万円を借り、無理がないように毎月5,000円ずつ返済することになります。それでも全て返し終わるには約5年、返済総額は約29万円になります。

それでも借りる必要があるか、少しでも自分のお金を用意して借りる額を減らせないか、もっと低い金利で借りられるところはないか、をよく考えるようにしましょう。

なお、様々な事情によって日々の生活のためのお金を用意できない場合には、色々なサポートを受けられるので、借金ではなくそちらを頼りましょう。お住まいの自治体に必ず相談窓口があります。ためらわずに相談することが重要です。

6. 金融トラブル

マルチ商法、○○詐欺、といった言葉は聞いたことがありますか?いずれも「絶対に儲かる」とか「あなただけに特別」などと言って「おいしい話」をもちかけてくるものです。SNSやインターネット上でもこうした勧誘を見かけたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

結論から言うと、「絶対に儲かる」話はありません。そんなおいしい話なら、とっくに知れ渡って全員が儲かっています。断りづらい話でも、必ず断るようにしましょう。

トラブルに巻き込まれてしまった場合には、「188(いやや!)」に電話しましょう。身近な消費生活センターの相談窓口を案内してくれます。

7. まとめ

ここでは、授業の内容をギュッと凝縮してご紹介しました。もう少し詳しく知りたいという方は、金融庁のHPをご覧ください。

これからも新しい金融商品・サービスがでてきます。今後も必要な知識を身につけ、うまく活用しましょう。

**【金融庁
ホームページ】**

